

豊頃町「報徳のおしえ」推進会議『ひろめよう！報徳の町に四つの心』

# 『報徳のおしえ』とともに

令和3年度「報徳のおしえ」講演会《中桐万里子氏講演》

## 講演テーマ「報徳」からはじまる豊かな未来創造（その4）

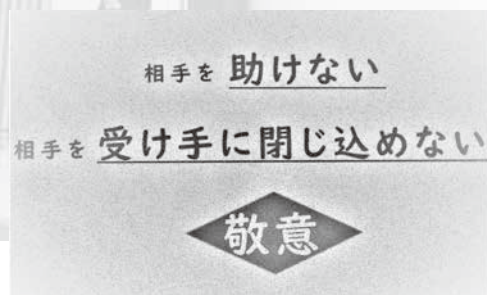
金次郎は確かに様々な人たちの困難、あるいは助けてくれという依頼・叫びと向き合いました。それを跳ねのけるのではなく、しっかりとそこに向き合ったのです。しかし、その時にとても大事に考えていたことがあります。「支えたり向き合ったりはするけれど、決して相手を救済してはいけないのだ」と、そうではなく一人ひとりが如何にしたら踊り（喜んで仕事し）だすことができるか。一人ひとりが如何にしたら元気に自分の務めを果たすことができるのか。

まさに救済をするのではなく、環境を整えることがとても大切なことになる。ということを探り返していたのです。

つまり、その人たちの為に為にと、恵んでいく発想ではなく、その人たちと一緒に立ち上がっていく。その人たち自身の力がなければ、その村は再建されな

い。そのことをとても大事に考えていました。「人々の眠っている力、眠っている思いを如何にかき立てていくか、あるいは燃えさせていくか、だからこそ『為にの精神ではない、共にということ』救済や救おうとする相手を弱者ととらえるのではない、一緒にやっっていく、そういうことをとても大切に考えている」そんなふうに言うのです。

そんな時に、よくこんなことを話して



「相手の眠っている力、眠っている思いを如何にかき立てていくか、あるいは燃えさせていくか、だからこそ『為にの精神ではない、共にということ』救済や救おうとする相手を弱者ととらえるのではない、一緒にやっっていく、そういうことをとても大切に考えている」そんなふうに言うのです。

「人々の眠っている力、眠っている思いを如何にかき立てていくか、あるいは燃えさせていくか、だからこそ『為にの精神ではない、共にということ』救済や救おうとする相手を弱者ととらえるのではない、一緒にやっっていく、そういうことをとても大切に考えている」そんなふうに言うのです。



▲左から中桐万里子氏と中川教育長。講演会当日、これからの「報徳のおしえ」について歓談されました。

を一緒に味わってくれた」

そのことが大きな感動となって、「この人にこんな思いをさせちゃいけない。私たちは必ずやっつけている場合じゃない。不平不満を言っている場合じゃない。自分たちが立ち上がって田畑を何とかしよう。盛り上げよう。この土地で何とか生産をしよう」と、一人ひとりが立ち上がり、生産へと向かった。

そのことが一瞬にして寒さを忘れ、一瞬にして空腹を忘れ、みんなが懸命に心に灯を燃やして、もう一度農業へと戻っていくきっかけになった。それがこの村人たちのしたことだったと言うのです。

まさに、相手に恵んでやろうという上から目線の考え方ではなく、一人ひとりの眠っている力を信じて、その人たちと一緒に立ち上がろうとする姿勢、それは全く違うことなのだと思えていったわけ

まさに、その教えをそのままに受け継いだ『二宮尊親』もまた、この町（豊頃町）で同じやり方でやりました。決して彼自身がリーダーとなって皆を教え恵んだわけではなかった。本当に一人ひとりが力を発揮しながら、そして一人ひとりが心に灯をともしながら、自分の力を信じ、願いを信じて立ち上がっていった。そんなたちでつくられた町だったというわけ

問合せ先

教育委員会社会教育係 ☎579・5801

令和3年度  
全国体力  
運動能力等調査

## 豊頃町の児童生徒の体力や運動習慣は？

問合せ先

教育委員会学校教育係 ☎579・5801

町内の小学5年生、中学2年生を対象に実施した令和3年度全国体力等調査の分析結果が北海道教育委員会から公表されました。各学校においては、この分析結果を生かした体育科授業の工夫改善、体力づくり活動の計画的実施など、すでに取組を進めているところ。これに関わり、本町の体育・スポーツ振興の観点から、家庭、学校、地域が連携・協力し、心身ともに健康な子どもたちの育成に努めてまいります。

- 調査実施期間 令和3年5月～7月
- 調査の対象学年及び実技内容
  - 小学校第5学年／握力・上体起こし・長座体前屈・反復横とび・20mシャトルラン・50m走 立ち幅とび・ソフトボール投げ
  - 中学校第2学年／握力・上体起こし・長座体前屈・反復横とび・シャトルランか持久走・50m走 立ち幅とび・ハンドボール投げ
- 運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

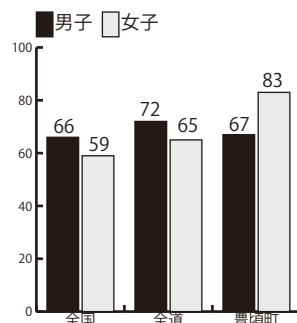
### ● 豊頃の子どもの体力等の傾向

【小学生】体力合計点は、男女とも全国、全道を上回りました。

《実 技》／全8種目中、男子は、握力・上体起こし・長座体前屈・20mシャトルラン・ソフトボール投げの5種目、女子はすべての種目が全国・全道平均を上回りました。

《質問紙》／「あなたにとって運動やスポーツは大切なものですか」の質問で「運動が大切」と回答した児童が全国より高く、運動に対する意識は高いです。／中学校進学後、授業以外に自主的に運動したいと回答した児童が90%を超えています。／生活習慣では、男女共に「平日のテレビ、スマホ、ゲームなどの時間」の回答で、3時間以上の児童が5割と高い数値になっています。また、男子では5時間を超える児童も27%います。

### 運動が大切（小5）

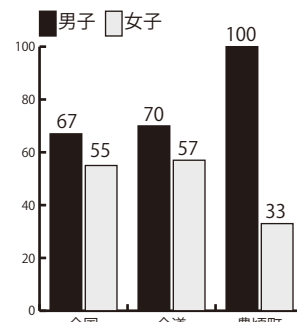


【中学生】体力合計点は、男女ともに全国平均を上回りました。

《実 技》／全8種目中、男子は、握力・反復横とび・持久走・シャトルラン・50m走・立ち幅とび・ハンドボール投げの6種目、女子は反復横とび・持久走・シャトルラン・50m走・立ち幅とび・ハンドボール投げの5種目が全国を上回りました。男女共に持久走が全国平均を大きく上回りました。

《質問紙》／男女ともに「運動が好き」と答えた生徒の割合が全国を上回っています。特に、女子が大きく上回っています。また、100%の男子が「運動は大切である」と答えました。／高校卒業後、「自主的に運動したい」と答えた割合は、男子は66.7%、女子は40%で、男女で大きな差が見られました。／生活習慣では、100%の女子が「毎日朝食を食べている」のに対して、男子は33.3%が「食べない日もある」と答えました。「平日のテレビ、スマホ、ゲームなどの時間」については、男女ともに3割以上の生徒が5時間を超えています。

### 運動が大切（中2）



### ● 調査結果から考えられること

#### 【全体の傾向と課題】

- 「運動の大切さ」を理解しているので、段階的に運動スキルを向上させるためにも、運動を楽しむ意識を育てることが大切です。
- 小・中学校共に、運動能力が高く、体を動かすことが好きな児童生徒も多く、こういった土壌を今後も大切にしていけることが必要です。
- 小学生は敏捷性、中学生は柔軟性の向上が課題です。
- 一日の生活の中でゲームやテレビ視聴等の時間割合が小・中学生共に長く、時間を決めることが大切です。

#### 【今後の取組の方向性】

- 学校では、今ある優れた能力を一層高めつつバランスの良い体の動きを目指し、総合的な体力等向上に資する授業研究や部活動等諸活動の充実に努めます。
- 家庭では、基本的生活習慣の基盤をなす「食習慣」を今後も大切にするとともに、家庭生活におけるテレビ、スマホ、ゲーム等をする時間にルールを設けることが肝要です。家族全体で健康づくりに取り組むなど、日々の生活の中に運動を取り入れていきましょう。
- 地域では、PTA、子ども会、スポーツ少年団活動や町内会行事等において、子どもも大人も楽しめるゲームや軽運動を取り入れるなど工夫し、スポーツに親しむ環境づくりにご協力をお願いいたします。